

会 議 録

会 議 名	令和5年度第2回佐呂間町部活動地域移行検討協議会	
開 催 日 時	令和5年7月26日(水) 午後6時30分から午後8時00分	
開 催 場 所	佐呂間町町民センター 第1研修室	
出 席 者	委 員	安田吉雄 氏(会長)、尾崎 実 氏(副会長)、小林冬季 氏、 二神孝久 氏、佐々木寿彦 氏、山崎逸子 氏、阿部翔平 氏、 日笠竜一 氏、船木桂輔 氏、室井久志 氏、 大宮義勝 氏 欠席委員2名
	事 務 局	西村管理課長、大谷社会教育課長
議 題	1. アンケート結果について 2. 中学校部活動の現状と今後について	
審 議 内 容	別紙のとおり	
備 考		

■ 開会 18:30

◎管理課長

まだ、全員お揃いになられておりませんが、時間になりましたので、只今より第2回目の佐呂間町部活動地域移行検討協議会を開催いたします。

まず初めに、安田会長より挨拶をお願いします

◎安田会長

皆さん、こんばんは。お忙しい中、また、お暑い中ご出席いただきありがとうございます。オホーツク管内では、まだ部活動の地域移行検討が進んでいない町村が多いのですが、十勝管内や他の管内では、かなりの町村で部活動の地域移行について検討をなされてきているところです。本日は、前回、話をしていたアンケートの結果について、それと中学校の部活動の現状と今後についてという事で検討を重ねて参りたいと思いますのでよろしくお願いたします。

◎管理課長

続きまして、2の協議事項に入る前に、事務局より1点説明があります。第1回目の協議会終了後と今回の会議案内時にも記載させていただきましたが、改めて諮問と答申について説明させていただきます。

前回の会議の中で、3月までの全5回の中で諮問に対しての回答を出すのは、日程的に厳しい、また簡単に答えを出すような物ではないのではないかとの意見がありましたので、今回の教育長からの諮問に対しての協議会としての答申について説明させていただきます。

諮問についてですが、例えば、ある事案に関して、有識者で構成された審議会などのような機関、今回でいえば、この検討協議会になりますが、そこに問い、見解を求めることでもあります。ですので、今回の諮問に対しての答申につきましては、佐呂間町としては、このように部活動の地域移行を実施しますよ。というような明確な答えを出すものではなく、例えばですが、このような地域の特性を踏まえ、このような考えのもと、児童生徒のニーズに沿った地域移行に向けて取り進めていくことが望ましいと考える。というような、ざっくりとした答申内容となるかと思えます。

その後、教育委員会では、協議会からの答申内容を受けて、どのようにしたら、その答申に沿った形で取り進めて行けるかを考え、進めて行くこととなります。

ですので、答申予定であります来年3月に、協議会で全ての答えを出して、その答申内容で、来年の4月から佐呂間町は、実施していくというような事ではなく、佐呂間町の部活動の方向性について、皆さんに協議していただく形となりますのでご承知お祈いたします。

今回の諮問事項は、大きく分けて、3点あり、1つ目に持続可能な運営に必要な主体のあり方について、2つ目に地域社会との役割分担について、3つ目に指導者確保等の諸課題の対応のために必要な事項についての3点でありますので、この点について、アンケート結果等による児童生徒のニーズの把握や日頃よりスポーツ文化活動や教育に携わっていらっしゃる委員、皆様の経験を踏まえ、様々な意見をお聞きしながら考えて行けたらと思っておりますのでよろしくお願いたします。

それでは、協議事項に入りますが、ここからは、会長の進行で進めさせていただきます。安田会長よろしくお願いたします。

◎安田会長

それでは、協議事項に入らせていただきます。

まず1番目のアンケート結果について大谷社会教育課長より説明をお願いします。

◎社会教育課長

第1回目の会議で御説明いたしましたアンケートにつきまして、結果がまとまりましたので御報告させていただきます。

資料1をご覧ください。アンケートについては小学4～6年生、中学生、小学生・中学

生の保護者、スポーツ協会、文化連盟、スポーツ少年団本部に加盟の団体にアンケートの御依頼をしております。アンケートの依頼数及び回答数、回答率は記載のとおりとなっております。アンケートの目的としては、前回の会議で御説明いたしておりますが、部活動の地域移行について賛否を問うアンケートではなく、部活動の地域移行が大前提であり、その中で子どもたちのニーズを調査し、子ども達がどのような部活動を行いたいのか？また、保護者の皆様が地域移行についてどの様に思われているのか？更に、地域で活動されている様々な団体の皆様が子どもたちの活動をお手伝いいただけるのか調査させていただきました。

それでは、詳細について御説明いたします。まず、集計結果①をご覧ください。小学生用です。

問1では、御回答いただいた児童の学年を伺いました。4年生31名、5年生28名、6年生42名から回答いただきました。次にグラフですが、問2から問4の質問を横に記載し、その回答を上段から4年生、5年生、6年生、最下段に全体を記載しております。

次に問2では、佐呂間中学校で部活動をやりたいか？やりたくないか？伺いました。下段のグラフをご覧ください。4年生から6年生の全体で、①やりたいが64名、②やりたくないが13名、③わからないが24名となりました。この結果から6割の児童が中学校で部活動をやりたい意向です。学年毎はそれぞれ記載のとおりです。

次に問3では、問2で「佐呂間中学校で部活動をやりたい」を選択した64名を対象に中学校にある部活動でやりたいものを伺いました。

下段のグラフをご覧ください。

全体として、野球9名、サッカー9名、男子バスケットボール6名、女子バレー5名、吹奏楽部7名、ない23名、空欄が5名となりました。先程同様、学年毎の結果を記載しております。

次に問4では、現在、中学校にある部活動の種目以外で、あったらいいなと思う部活動の種目を一人最大3種目選んでいただきました。

下段のグラフをご覧ください。

全体として、第1位がバドミントン、第2位eスポーツ、第3位写真、第4位女子バスケットボール、第5位卓球となりました。こちらについても学年毎の結果を記載しております。

各学年の共通といたしましては、圧倒的に第1位がバドミントンとなります。第2位がeスポーツ、写真、女子バスケットボール、その他、卓球、美術、スノーボード等、団体で行うよりも比較的少人数で活動できるものが選ばれています。

次に、集計結果②をご覧ください。中学生用です。

問1では、現在、部活動に所属しているか？いないか？伺いました。運動部66名、文化部8名、所属していない27名から回答いただきました。

次にグラフですが、先ほどの小学生用同様に、問2から問4の質問を横に記載し、その回答を上段から運動部、文化部、所属していない、最下段に全体を記載しております。

次に問2では、問1で部活動に所属している人だけ、休日の部活動についてやりたいか？やりたくないか？伺いました。

下段のグラフをご覧ください。

全体で、①やりたい34名、②やりたくない24名、③わからない16名となりました。

運動部、文化部毎に見ると、運動部ではこの傾向は同じですが、文化部では①やりたい、②やりたくないが、ほぼ同数の傾向となります。また、③わからないを選択した生徒も一定程度のいる状況です。

次に問3では、地域移行によって、これまで中学校になかった競技に参加、又、学校の先生ではない方が指導者となる可能性がある活動の場合のニーズを伺いました。

下段のグラフをご覧ください。

全体で、①参加したい38名、②参加したくない21名、③わからない42名と、①参加したい意向が多い状況です。しかし、③わからないとの回答も多く、生徒達も経験をしたことがないことで判断が付かない状況であるものと思われます。

次に問4では、季節又は曜日によって複数の部活動に所属したいか？伺いました。

下段のグラフをご覧ください。

全体で、②所属したくない 46 名、③わからない 30 名と①所属したい 25 名を大きく上回っている結果です。これは、運動部、文化部に所属している生徒、部活動に所属していない生徒同じ結果です。複数の部活動に所属するイメージができなかった、又は、一つのことに集中したいものと推測されます。

次に問5では、指導がオンラインでの行われることになった場合、指導を受けたいか？受けたくないか？伺いました。

下段のグラフをご覧ください。

全体として、②オンラインについては、指導をうけたくないとの回答が約半数の 47 名となりました。③わからないとの回答も多い結果です。この結果は、運動部、所属していない生徒も同様となっておりますが、文化部では半々となっております。

次に問6では、小学生のアンケート問3と同じ種目となりますが、今後やってみたいと思う部活動の種目を一人最大3種目選んでいただきました。

下段のグラフをご覧ください。

全体として小学生同様に第1位がバドミントン、第2位がeスポーツ、第3位がスノーボード、第4位が卓球、ダンスとなっております、小学生のアンケート同様に比較的少人数で活動できるものが選ばれています。

次に問7では、部活動について思うことを自由に記載していただきました。内容については記載のとおりです。

次に、集計結果③をご覧ください。保護者用です。

問1では、お子様が部活動に参加することで期待することについて？最大3つを選んでいただきました。上位の結果といたしましては、チームワーク・協調性・共感を味わうこと、友達と楽しく活動すること、体力・技術を向上させること、進学や就職に有利となるかもしれないことの順となり、その他は記載のとおりです。

また、その他の御意見としてグラフの横に記載のとおりとなっております。

次に問2では、部活動の地域移行に関して、課題と覚えることについて？こちらも最大3つを選んでいただきました。

上位の結果といたしましては、人材（指導者・活動を運営する人など）の確保、外部の指導者の指導力や人柄、受け皿となる団体などの整備、参加する場合の交通手段、トラブルが起こった場合の責任の所在、・生徒・保護者の理解、活動場所の確保の順となり、その他は記載のとおりです。

また、その他の御意見としてグラフの横に記載のとおりとなっております。

次に問3では、部活動の地域移行にともない土・日の両方部活動をしなない場合の保護者の考え方について？困るか困らないか伺いました。「困らない」が「困る」を大きく上回っております。また、「困る」と御回答いただいた場合にその理由も伺い、様々な御意見をいただきました。多いご意見としては、「土・日」も部活動を行ってほしい。その理由として平日の練習量が足りない。土日に集中して練習ができる。また、試合や大会の事を心配されている御意見もありました。詳細については、記載のとおりです。

次に問4では、部活動指導がオンラインで行われことになった場合について？保護者の皆様の考えを伺いました。一番多い回答は、③内容によるが 81 名となっております、その他の御意見としては記載のとおりとなっております。

最後に、別紙4をご覧ください。団体用です。

問1では、休日に中学生の活動をご支援いただけるか？伺いました。御回答いただいた24団体の内、11団体から御支援が可能と回答をいただきました。

次の問2では、問1で「可能です」とご回答いただいた11団体に、休日、土曜日に子ども達の活動を支援いただける場合、時間や内容等について伺いました。

時間帯としては、1時間から2時間以内が7団体、2時間から3時間以内が3団体となっております。

また、御指導いただける内容については、サッカー、バレーボール、生け花、柔道、ゴルフ、パークゴルフから御回答いただき記載のとおりとなっております。

次の問3では、ご指導あたって課題や気になることを伺いました。

上位の結果といたしましては、指導する人材の確保について、多様化している生徒との関

わり方について、指導者の報酬等について、大会の引率についての順となり、その他は記載のとおりです。

また、その他の御意見としてグラフの横に記載のとおりとなっておりますが、各団体からクリアすべき内容について、また、どこまで関わるべきか？という御意見をいただいております。以上でございます。

◎安田会長

今のアンケート結果の説明に対して、何かご意見ご質問等はございませんか？

◎各委員

なし。

◎安田会長

それでは、アンケート結果については、終わらせていただきます。続きまして、2番目の中学校部活動の現状と今後についてということで、私の方から説明をさせていただきます。今月の21日に、保護者説明会を中学校で開催させていただきました。ここに付けてある文書は、その結果についてお知らせをしているものになります。保護者説明会の中で、話をした事は、どのような事かという、現行の職員の数は、生徒数でいうとだいたい10名くらいになります。普通学級で7人の定員、特殊学級3人で10名くらいしかいません。1つの部に、2人顧問を付けておかないと運営することが難しいので、本校の場合だと、だいたい5つくらいの部を設置することが可能です。ただ勤務時間とかの関係もあるので、全員やってくれますよとなるかどうか、わからないですけれども、現段階では、5つの部を平成30年から、運営させていただいております。ですので、今年度、春先に募集したのが、野球部、女子バレー部、男子バスケットボール部、サッカー部、吹奏楽部。野球部、サッカー部については、男女とも加入しています。吹奏楽部もそうです。そのような形で、実施している状態で、114名の生徒のうち、加入率でいうと、66%くらい。小学校のアンケート結果とあまり変わらないような感じの加入率になります。ただ、佐呂間中学校の生徒数は、今後、100人を切るのが4年後に、今、114名の人数がしばらく続くのですが、そのあと一気に80人台くらいに減っていきます。今の小学校3年生、2年生くらいが入ってくる頃になると、どんどん、どんどん生徒数が減って行って、80、70、60台くらいになります。その時の職員の定数は、多くてたぶん8か9くらいになると思います。なので、5つくらいの部を維持していくことは、たぶん可能なのですけれども、団体競技しか部活動がないので、そこの活動はしていても、単独のチームで、出るというのは、非常に難しい状況となるのが考えられます。これはですね、昨日、私も遠軽ブロックの校長会議に出ていたのですが、遠軽町の先生に聞いても、湧別町の先生に聞いても、同じような状況でした。部活動はあるけれども1つのチーム、1つの学校で出るとは難しい状況に、今後なっていくそうだという事がわかってきます。ただ、このアンケート結果からみて、子どもたちのやりたいというスポーツと実際学校が設置しているスポーツは、ちょっと開きがあり、子ども達が土日に実際にやりたいのか、やりたくないのかということにも、かなり温度差があるのが、わかってきています。そして今後のことを考えてなのですが、このままだと、やはり部活動を増やすことは難しいのですよね。制度的なものでいうと、次のページに資料2で部活動指導員の制度化についてということで、これを前回スポーツ庁の方が来られて、その後も、メールのやり取りをする中で、いきなり地域移行というのは難しいと思うのですよねという事でご

相談させていただいて、何かこう中間的なもの、もしくは、中学校の先生方の数が増えなくても部活動を維持し、継続的に持続可能な活動ができるような制度がないですかねといった話をしたところ、平成29年に、こういうものが出来ていますよということでご紹介いただきました。この制度どういうものかという、部活動指導を教職員以外の人に担ってもらう。そして学校の先生も、そこに協力をしながら、一緒に運営をしていく形の制度になります。ケース1の場合だと、担当教諭は、指導は実際しないのだけれども、例えば生徒との連絡事項であるとか、名簿を作成、大会の申込だとか事務的な手続きをしていくようなものです。ケース2の場合は、顧問は、学校にいるのだけれども、顧問の指導が必ずしも、適切な指導ができない場合は、部活動指導員の方にも顧問になってもらって、一緒に指導したり、引率してもらったりするものです。ケース1の場合でも中体連大会等のものは、担当教員が付いていかないと参加できない協議もあるので、担当教員も付いて行ってもらって参加をする。というような制度があります。実は、佐呂間中学校、昨年度の冬に吹奏楽の指導者が足りないという事で、部活動指導員の制度を佐呂間町は、令和4年の12月に制度化されていました。私も、ここに来て初めてわかった事なのですけれども。もう制度化されている物なので、現実的に今も、女子のバスケットボール、男子のバレーボールなんかは、中体連大会に佐呂間中学校の名前で出場しているのですよね。少年団としてやっているのですが、現実的に、その名前で出場しています。ただ少年活動として出ていくことになるので、いろんな保証がすごく難しいところがあり、例えば、活動中のケガであるとか、大会の参加費だとか、旅費だとか、そういうような部分は、全部自分持ち、少年団個人負担という形になるので、今後も継続的に、指導員の方がいらっしゃるのであれば、学校の部活動の指導員という形になってもらって、部活動を増設することは可能なのではないかという風に、職員会議等にも諮りながら、可能ではないかなという結論にはなっています。またバドミントンの指導については、元々バドミントン部については、本校にあったという事で、道具とかもあるのですよね。で、子ども達のニーズも高いという事と、町の中に指導者もいるということもあったので、その方に部活動指導員やってもらう事って可能ですか？と話をしたところ、可能ですという話で、今、手続きを進めているところであります。

資料戻って②番 令和5年 設置部および担当者教諭とあるのですが、この5つの部を設置しているのですが、今年度は、以下の部活動に部活動指導員を配置し、検証していきますよという形に7月21日に保護者に説明して、実際、この男子バレー部、女子バスケ部、バドミントン部を年度途中なのですが、検証する部活動として設置して、2月くらいまで持続可能な状態で続けて行けるのか、検証させてくださいということで保護者の方に説明をし、承諾を得たところです。よって来年度、必ずこの部活が設置されるという訳ではないのですが、現在、部活動に加入していない生徒の中で、この活動をやりたい人いませんか？ということで今、部員を募集しているところであります。現時点では、女子のバスケットは、少年団活動をしている子は、基本そのまま、そこにスライドしていくことになるので、もう6人以上の部員がいる形になって、練習する会場も男子バスケ部と一緒に、部活動指導員の方に見てもらって時間を取りながら活動することは可能そうだと。男子バレー部については、中体連大会が終わった後、3名くらいしか残らないのですが、一緒に活動することは可能だし、部活動という事で、名前があることで次年度、入ってくる生徒が、少年団だと、なかなか、そこから増えることはないのですが、来年度、部として設置することで、今年度同様、中体連大会に参加することができる可能性があるというこ

とで検証していく。バドミントンについては、現在、4名がやってみたいという申し込みがあったので、その子たちを8月の上旬に、保護者も含めて、集まっていただいて、本年度については、部費だとかは集めない中で出来る活動の中でやってみて、来年度、4月に初めてスタートすると中体連大会の準備が間に合わないの、その子たちが中体連大会に出たいですとか、出られるような状況であれば、来年度から中体連の方に登録をして参加していきたいなど。部活動を増やしていくような形で、取り組みを進めて参りたい。いきなり地域の方に、全部お願いしますという事は、なかなか難しいだろうということで、その逆で、学校の活動の中に、地域の方々に入っていていただいて、一緒にやりながら、最終的には、どうしても移行しなければならない部分も出てくるかもしれませんが、最後のページをみてもらうと、このような図になるのかなと思います。今は、学校教育の一環、そして地域移行ってなると完全に離れてしまう形になるのですよね。ただ、この移行するということに、かなり大きな課題があるなっているというのは、私も紋別の校長先生たちから聞いたりだとかした話の中で、感じています。紋別の場合は、先に部活動を潰してしまって、その後に地域移行をしますという形で進めたのですけれども、まったく上手くいきませんでした。中体連大会に参加するとか、しないとかも、この春までずっと揉めたままきており、学校と切り離してみたものの、受け皿としても上手く機能できない、中体連の大会に出られるか出られないかもわからないというような、すごく微妙な状態になってしまったところがあります。ここに大きな課題があるのに、いきなり地域移行するのは、中学校としては、すごく難しく、職員も最大で5年間しかいられません。今、たまたま指導できる人がいたとしても、次の時に指導者が来るっていうところは、すごく難しいなと考えています。そこで、やはり今は、このボランティアでやっていただいている外部指導者の方を、部活動指導員という形で指導してもらう。それで活動中のケガでの保障であるとか、その部分については、学校のスポーツ振興協会の保険だとかで対応しながら、もし何かケガがあった時でも、指導者の負担、負荷になる部分をできるだけ減らしていくという形の中で、地域と共に歩みながら、しばらく続けていけることをやっていって、完全に先生方が減ってしまっただけでなくなってしまう時は、佐呂間町教育委員会と地域クラブと業務契約などしてもらって、学校の部活動なのだけれども、少年団の方に教えてもらう。学校教育とバツンと切り離すような状態ではなく、しばらく続けていくことが、持続可能なというのが諮問の中であったので、そことしては、この部活動指導員制度を活用したり、今、アンケートの中にも文化連盟の方とかでも、このような活動できますよというのがあったので、その部分も土曜日だけの活動とかで、部活動は体育系やりたくないけど、お花を生きたいという子には、対応できたり、個にもできるだけ対応できるような状態を作っていくと先生方だけで多様なものを抱えていくというのは、ちょっと限界があるのかなという風に第1回の検討会議の中の皆様方の意見を聞いても、そのような事が感じられたところです。で保護者の方に今このような形で説明して、検証の部活動を初めて行くことになります。また次回の会議の間までに検証して、このような形で進んでいますとかは、委員の皆さんにお知らせしますし、このようなことをすることで、もっとより良くなるのかなといったご意見等があれば取り入れながら、検証を進めて次年度、最終的には、今年度の2月くらいまでの間に来年度の部活動の形、学校の先生は、この部活動を持ちます。この部活動は、部活動指導員とか、先生が協力してみますとかを小学校の入学説明会に入学生徒や保護者にお知らせしていくことができるのではないかなと考えています。また小学校に活動がないものでも部活動指導員さんに来てもらう事で体験的な入部活動だとか、

中学校に入ってからギャップができるだけ少なくなるような取り組みをしながらいかないと、やはり中学校と小学校とかなり温度に違いがあるので、その部分をできるだけ、こういう地域の方にも入っていただきながら、学校だけではなくて地域の方も一緒に何かできていく方が、いきなり地域クラブお願いしますというよりは、たぶん、いいのかなと、そういうようなことも考えながら、今のところできてきているところでもあります。もちろん検証している段階ですので、これがダメだったというところも出てくると思うのですけれども、出てきたところは、そこを改善しながら進めて行くしかなく、今後の活動が、どんどん小さくなっていくという方向ではなくて、ある程度、維持できるような活動を中学校としては、考えて進んでいます。雑駁な説明でしたが、2番目の中学校の現在の現状や経緯についてお話ししましたが、こうした方が良いのではないかとか、どんな方向からでも構いませんのでよろしくをお願いします。

◎船木委員

今、バレーとバスケの検証をするということでしたが、現在、お礼を支払いしていますか？

◎安田会長

現在は、部活動指導員の契約をしていません。今は、少年団として活動していて、人数が足りているので、佐呂間中学校として、中体連大会にだけ参加している状況です。今後は、部活動指導員として、学校の部活動として位置付けることとなりますので、部活動指導員の契約をしていくこととなります。そうすると1時間あたり1,600円の報酬となります。

◎船木委員

それは、まだ行っていないということですね。

◎安田会長

まだです。部活動として、7月末に始めますよと説明しましたので、8月に契約をして、そこからになります。

◎船木委員

中体連に行くときにも支払ってはいないということですね。

◎安田会長

その時は、まだ外部指導者という事でしたので、その時は、お金が発生する契約ではないです。ただ、今後、部活動指導員ということになれば、1時間当たり1,600円ということになります。

また部活動の時間は、限られており、平日だと2時間、休日だと3時間程度、週の中で16時間を超えないというのが、あるので、そこを超えられないです。練習試合などに行くと、ほぼ丸一日になりますけど、移動する時間、ウォーミングアップする時間なども含めると、8時半に出ていき、2時、3時になる時もあります。

◎室井委員

昔の部活動では、考えられませんね。屋外の部活動は、暗くなるまで行ってましたよね。

◎安田会長

色々規制が出来てきまして、やらせ過ぎを防ぐということですね。しかし、そのようになったからといって、競技が弱くなっているのかといたら、そんな事もないようです。

◎室井委員

もし中体連とかで、現在のバスケのように、少年団でやっていて、佐呂間中学校の名前で出場していて、全道大会や上の大会に勝っていった時に、問題は、まったくないのですか。

◎安田会長

今年から中体連の参加の基準が、例えばクラブで登録すると、その手続きがすごく大変なのですよ。例えば、女子バスケで大会に出るとなると、少年団で出るとなると、手続きなどで凄くハードルが高く大変なのですよ。今年の春も、最初は、少年団で出ようと進めていったのですけれども、やらなきゃならない事が急に来たり、凄く難しく、部員も佐呂間中学校だけで、単独で出られる人数がいるので、学校の登録で出せませんか。という事でしたので、佐呂間中学校として出ました。

◎室井委員

地域移行したとして、地域移行の範囲は、町内だけでは厳しいですよ。

◎安田会長

個人競技だと、町内だけで出ていけるので、あまり問題ないのですけれど、団体競技は、これから、どこの町でも出てくるのが、野球部5人しかいないですとか、バレー部3人しかいないとかになった時に、学校の部活動で言うと合同チームという形で参加することになります。野球部なども今年度、もうすでに、合同チームですのために、昨日の校長会議でも湧別の校長先生たち3人と秋は、合同チームにならないと出られないので一緒になりましょうという話を、顧問だとか保護者の方に説明しています。

◎室井委員

男子バレー、女子バスケも佐呂間町に近い、計呂地だとか、芭露だとか、その辺のやりたい子が佐呂間のスポーツ少年団で活動するとなると、その子達は中体連に出られないという事になりますか。

◎安田会長

クラブとして、もし参加する場合は、佐呂間のクラブでいた方が、その子たちは、登録で出られるのですが、今の制度だと、湧別が、その子達が、その学校のバスケット部員として、合同チームで出すという形になります。

◎室井委員

結局、地域移行の前に文科省とか中体連の制度も何も変えないうち、整備しないうちに何となく地域に移行しませんか。という形だから、話がややこやしくなる。

先に制度ができていて、それからそれに乗っかって地域移行するなら簡単で早いと思うのだけれど、何か地域移行だけしてくださいと投げ掛けだけされて、地域に丸投げみたいな感じがあって、そこが制度上のネックだと思います。

◎安田会長

先に地域移行の話があって、それが中体連に話が下りてきた時に、色々な出場するための課題が出てきて、今、慌てて中体連は、制度を変えて来ているところであります。ただ、まだそれも完璧な制度ではないので、どんどん改訂しながらという感じで、今年だけでも、3回くらい、このようになっていきますという連絡がきています。

◎室井委員

このようなこと、先生ので言ったら失礼になるかもしれませんが、最初の出だしが、教員の休日確保のためっていうのが、スポーツ推進委員の全道的な研修会の中でも、出て来ていて、それが何か急に、まずかったと反省したのか、急に出なくなった気がするのだ

けれども、最初から、子どもが減り、先生方もいなくなってしまう話の持って行き方だと、もう少し進むのが早かったのかと思います。最初からの戦略ミスというか。

◎安田会長

戦後から日本の部活動は、先生方の勤務時間のあとに元々付いていて、私も学校の先生になったのは、平成6年ですけれど、その頃は、部活動は、やるものだと思っていましたけれども、現実的には、勤務時間の外にあります。そして部活動指導が上手くいなくて、辞めた先生がいたりだとかも現実的にありました。私も中体連の事務局だとかやっても、色々な部活動ガチャじゃないですけど、ガチャガチャのように、学校が変わると違う部活を持たなければいけない。その指導が長けていればいいのですが、長けていない時は、やはり上手くいかないという問題もあります。

◎室井委員

確かに自分たちが親になった時に、同年代の先生方が小さい子供もいるのに、よく土日先生方付き合ってくれていて、今、考えたら申し訳なかったと思うので、休日のためというのは、全然問題ないのだけれども、話の持って行き方が下手な気がします。

◎安田会長

どちらかというと、全部後付けで来ているような形はあります。現場が今、一番困っている状況ですよ。ただ混乱はしているのですけれど

◎室井委員

外部指導員は、中体連の大会に引率していけないというのがありましたよね。その辺も制度としてきちんと整備して、先生だって仕事あるのだから、外部指導員が引率できれば良いのに。中体連との兼ね合いなのか。

◎尾崎副会長

何年も前から、こういう問題があって中学校とは、外部コーチを入れる入れないという話し合いもした事があるのですよね。その当時から、この先は、厳しくなるのはわかっていただけけれども、制度がどうのこうのもありますが、今は、この地域でどうやって対応するかという話にしないと、前に進まないと思います。

◎室井委員

指導できるような人材は、たぶん探せばそれなりにいると思います。

◎尾崎副会長

それなりにいるし、反対に、この地域で指導できる種目や競技の普及もあると思うし、そういう人がいれば、その人たちに協力をお願いするという事と、一番期待しているのは、学校の教員の方と地域住民は、あまり接点がないので、僅かな人たちかもしれないけど、その方々と先生方との交流というのは、学校自体に期待しています。個人的な意見ですが。

この地域で、どういった形で、どういう事を頑張れば良いのか。そういう話を、進めて行った方が進むと思います。

◎安田会長

持続可能な運営だとか、地域社会と学校との役割分担というのも諮問でありますので

◎室井委員

週休2日の人ばかりでないし、勤務先の理解も必要であって、土曜日だけなら良いとか、日曜日は休みだからいいけれど、勤務先の理解があれば、指導に行きますっていう人も出て来やすいとは、思うのだけれども。環境をまず作っていかないと。

◎尾崎副会長

私が心配しているのは、指導者がもう高齢なので、口だけでは駄目なので。

◎室井委員

一番人気のバドミントンに関して言えば、少し前まで中学校や高校で全道大会に行った人がいるので、ちょうど指導者として、やってくれる人もいると思うので。他は、e-スポーツは、指導者が大変だと思います。スポーツ推進委員の全道の会議でも、出て来ますが。戦略的に作戦を立てて、何人か共同でやっていくというのが、戦略的スポーツでサッカーやバスケットと同じ扱いみたいですが。要は、頭を使ったスポーツだということなのですよ。

◎安田会長

大空町は、ソフトバンクに協力いただいてやっていますね。

◎室井委員

ネット環境が必要ですからね。そういうところとタイアップすれば、良いのでしょうか。湧別は、学校ではなくて、違う公共施設に設置していますよね。うちとしては、指導員の配置が上手くいけば、一番良いのかなと思いますけどね。

◎船木委員

指導員は、今、二人ですか？

◎安田会長

バドミントンの方1人、バスケの方1人、バレーの方1人の予定です。

◎船木委員

バドミントンの方、見つかっているのですか？

◎安田会長

浜佐呂間の室井斗哉さんと先週、お話をさせてもらって、協力できる範囲の中でということで、それ以外の役場の職員ですとか、公務員は、平日できないのですよね。ですので公務員以外の方で探しているのですよね。

ただ、中学校、1回バドミントンが無くなっている関係上、少年団が無い中で、少年団を作ってもらってから、部活等となると時間が係るので、先に部活動指導員を入れて、それから少年団活動も並行して準備を進めてもらうような形を取っていかないと、小学生も

バドミントン多分にいたので。体育館が空いている日を、小学校さんに確認したら、木曜日が今のところ空いているという事でしたので、あと中学校の体育館をどういう風に回して空けていくかとなります。土日の部活だと、現状、スクールバスの関係で午前中に部活動が集中しすぎて、午後は、ほとんど空いているのですよね。日曜日は、バスが動かない関係で、土日のどちらかしかやらないとなると、土曜日に限りなく集中してしまう状況なので、しかしバスの運転手さんの関係とか色んな問題は山積みなのですけれど、そういう事も含めて、高校に行くにも、部がないのでどうしようという問題もあるし、高校も先生の数が限られているので、そのようになった時に、例えば、サッカーだと、学校に部活動がなくても、登録さえしておけば、一緒に中学生とかも練習して、フットサルでクラブとして出ていくことも、U-18のカテゴリですとか、U-16ですとか、中学校部活動も結局、中体連以外だとカブスリーグというリーグがあって、そのリーグ戦にも出ていたりしており、たまたま、うちの職員もサッカーの資格を持っていますので、地域のサッカーの指導者の方と連携を取って、どんな風にできるのか模索してもらっています。サッカーは、団体として協会がしっかりしているので、中体連よりも、サッカーは、システムの方がきちんと出来ています。

◎室井委員

中学校では、サッカーやっていたのに、高校に行くところにはあるけど、合同チームで部員2~3人しかいないから、それならバドミントンという話も聞いたり、結局やりたいのを断念したりしているのを目の当たりにすると、可哀そうな気がします。

◎安田会長

学校の管理下の活動になるので、高校の先生は、合同チームになると、その練習会場に付いていかないとならなく、すごい大変になると思いますね。

◎室井委員

昔は、佐呂間も、中学校が若佐と佐呂間と浜佐呂間にあっただけけれども、富武士や若里から自転車で学校に通ってましたけどね。

◎安田会長

なかなか今は、昔の子と違って、わざわざ自転車で来ようとはならないですね。

◎室井委員

部活動指導員のこの体制が上手くいけば、それで地域移行ということには、なってくるのですかね。

◎安田会長

とりあえず土日の地域移行を国は進めているので、土曜をまず、部活動指導員さんを地域の方にやってもらえば、また、うちの学校の職員とかも、その土日で指導したいよとなれば、例えば少年団があるのであれば、その少年団に、うちの先生も登録させて一緒にやっていく形になりますね。必ずしも全員が、指導に長けている訳ではありませんが。

◎室井委員

少年団関係の指導者と上手く連携を取っていかないとならないですね。

◎安田会長

今、いったんその部活動指導者の制度を活用して、そこの融合を図っていくのが、地域移行にあたって一番重要だと思います。今まで、学校で出来ないとなったら、終わりになってしまうのを、そうしない持続可能というところを視野に入れながら進めて行かなければならないと思います。

◎船木委員

地域移行したからと言って中学校の体育館は使ってはダメとかはないですか。

◎安田会長

それはないです。町立の施設で小学校も中学校も町の施設なので。

◎船木委員

あとは、保険・保証の問題ですね。その辺は、例えば、町が持つとか。

◎安田会長

例えば、今、部活動だと学校の教育活動の一環として行うことになるので、学校のスポーツ振興協会の保証でケガしても出せるのですよね。ただ佐呂間町の場合は、医療費が掛からないので、現実的に軽いケガですと保護者の方、それを使わないこともあります。大きなケガになった場合は、例えばボールが目に当たって弱視になってしまったとか失明した時の保証とかは、スポーツ振興協会がかなり大きいので、何千万円単位の保証がありますので学校だと。ただ少年団だとかの保証となると。そんな額が出るようなものではないのですよね。年額何百円単位の保険料ですのでね。1治療当たり2～3千とプラス保証がいくらとかですかね。それが部活動下でのケガとなると5千円くらい掛かったとすると、6千円くらい給付になります。交通費も含めて給付されるので。やはり指導している方のミスでなくても、指導中に起きてしまった事故とかが、そういう意味では保証をきちんとできるような状態で、こうしていくのか今の段階ではいいのかという風に考えます。

◎室井委員

教育委員会としても、これを構築していくことに積極的に関与していく考えですか。

◎管理課長

とりあえず今の段階で、校長先生が説明されたとおり、急に地域移行に持って行くのは私も厳しいと考えており、本町は、部活動指導員制度が制度化されていますので、現時点では、それを積極的に活用し、様子を見ていき、その後、教育委員会内で答申や課題点等を協議して行きたいと思っております。

◎室井委員

配布された資料等を見ても成功例しか載っていない、大方が地域総合型クラブを活用した連携みたいのになるのですよね。昔、地域総合型クラブを作れ作れと言われてた人からすると、そっちが上手くなったから、そういう形で来たかと思えない。地域総合型クラブでバドミントンやサッカーやら色々なスポーツをやっている指導者がいるところならスムーズに移行できるのかなと思うけれど、残念ながら、この地域では、ないのでね。

◎管理課長

やはり佐呂間町に合った持続可能なやり方を見つけて行かなければならないと思うのですよね。

◎小林委員

自分は教員ですけれども、長い間、少年団活動にも携わってきましたけれど、自分は野球だったので、なかなか小学生と中学生と一緒に、野球をするには、難しいと思うのですけれども、少年団の指導者が、中学生を指導するのは、指導者次第と言ったら変ですけれども、皆さん仕事がありますので、それが非常に大きいのかなと思います。少年団活動でいくと、指導者だけじゃなくて、多分に保護者の方にも、ご理解とご協力をいただいて遠征とかしていますので、その基盤みたいなものは、少年団というものは出来ていると思います。そこの関わりというのは、探っていくのが近道なのかなと自分の経験からは思います。

◎二神委員

私は、春まで管内のリコーダー競技研究会の会長だったのですけれども、体育系ではないのですけれども、成功例に近いと思うのが、津別町は小さな子から大人まで、リコーダーの活動のグループがあるのですよね。幅広く活動を楽しんでいて、コンテストになったら小学生だけピックアップして合奏させて、中学生は中学生だけピックアップして中学校の部に出るのですよね。全体では、大人が入ってしまうとさすがに中学生の部には出られません、一般の部には、子どもが入っても出られるので、そういう活動をしていて、子どもの人口だけではなくて、地域そのものの人口も減っていくとなると、佐呂間町として生涯スポーツの観点が大事になってくると思うのですよね。何を残して、皆で何を楽しんでいくか、その中で大会になったら、先ほどの話で、今、サッカーが一番しっかりしているということですが、その年齢の子ども達だけが、合同チームを組んでというような、そういうビジョンが持てると地域移行というより、言葉があまり良くないのかなと感じが受けるのですけど、地域で幅広く障害通して、活動していく、そういうスタイルが作れると、とても良いのかなと風に考えています。あと保険の話ですとか、指導していただく方にやはり負担が掛かるので、その辺は、制度としてではなくて、佐呂間町は佐呂間町として、どのくらいバックアップしていけるのかも付加して行くべきなのかなと思います。

余談ですけれども、この会の最初、来てびっくりしたのですけれども、地域の方々からすると、学校の先生方がこれだけ多い話し合いの場というのも、ちょっと。もっと他に出てきているような、ここに参加すべき人がいるのかなと思っています。今度、ステップが一段上がった時には、そういう組織になると良いのかなと思ったりもします。

◎佐々木委員

現実的な話として、スポーツなり文化なりで、それぞれの大会とかあるものは、そのまま行けると思う。ちょっとネックになるのが中体連ですよ。そこに擦り合わせの部分が、先ほど話が出たように、まだ制度的なものが確立されていないので行ける部分は行きながら、中体連に特化した部分だけは、ちょっと置いておいて、そこだけ先ほどから出ている部活動指導員でやり過ぎすしか、今のところは無いのだろうと思います、で、将来的にちゃんとまとまっていった時に、初めて今話しているのが、ずっと行くのではないかと思います。

◎山崎委員

高校は、今、中学校にある部活がある訳ではないのですよね。先ほど、室井委員がお話ししたように全部あったら良いのになと思いますが、今、全校生徒70名で、サッカーは3人いますけれど部はなくて、女子バレーもなくて、男子バスケットがあって女子がマネージャーをしていて、吹奏楽はあります。という感じなので、中学校さんの整備が進むと高校はどうしてできないのだという風になってくると、同じ規模ではあるのですけれど、難しいというのが正直なところです。中学校の活動がしっかり根付いていけば行くほど高校でもそれに近いものを作れるように地域の方々に、高校でも外部指導者としてやっていただくような、中学校までを指導するという様な仕組みではなくて高校生までも指導してもらえる様な佐呂間町としての仕組みが作れたと、道立学校ですけれどもね。でも、そういう風な事で、後々は、高校生も指導してもいいよねというような感じであれば、本当にいいなと思いますし、学校に部活動が無かったとしても、合同チームであったり、今は、色々な部活が大会に参加できるようになってきていますので、中学校がしっかり組織と地域の方々と共に組織を固めて行けば、高校にはなくても、継続して指導できていく体制が取れるかなと思っております。本校、今一番人気なのは、バドミントン部です。20名おりまして、部活動は、すごく一生懸命やっておりますが、スクールバスの関係で、日曜日できないのですよね。先ほどバスの話がありましたけれども、こういうのが整備されていけば、部活によっては、土日どちらか休まなければならないけれども、状況によっては体育館の場所とかの関係で、土曜日休んで日曜日にやった方が効率が良いという部活も当然出てくると思います。その時は、日曜日にできるような体制を町は取るというように、そういうところも併せて考えていただけたらいいなと思います。

本校の体育館も1つしかなくて、バスケットとバドミントンとやりくりしていますが。バドミントンの人数が多かったら、反面だけでは足りないとか、他の学校と練習試合できないということになってきますので、土日両方できるようになれば、選べたりもできるので。吹奏楽は、もうある程度、中高一緒にやっていたり、サッカーも人数が少ないので、中学校さんにおんぶにだっこ形で毎日行かせてもらっていたりという連携も出来ているので、他の分野でも、そういうことが進行して行けばいいなと思っています。

e スポーツの事ですけれども、留辺蘂高校におりましたので、e スポーツの立ち上げの時はいなかったのですけれども、運営で関わっておりました。機材は、何百万ってするのですよね。年間リースで100万とかしたり、整備にももの凄くお金が掛かるのですよ。維持費だけでも100万とか。ですがそれは、町として維持しているから学校には設置できない。湧別高校は、学校の中に作りたかったけど、できなくて町の施設の中にした。だけど学校

から移動があるので長続きするかどうか校長先生が心配されておりました。佐呂間町、幸い色々近いので、どこに出来ても長続きするかなと思いますけれども、場所の問題とか継続的に長期間やっていけるかどうかというのは、並行して考えて行かなければならないのではと思います。

◎安田会長

中学校と高校と色々な形で一緒に活動させていただいて本当にありがたいなと思います。

◎阿部委員

正直、小学校の教員という立場もあって、よくわからずここに来ています。保護者さんのアンケートを見たときに、たぶん私と同じような感覚を持っている方々って凄く多いのだなと感じました。良くわかっていないという。ですので、この先どうなのかなと、どうやって理解を広めていくのかなと気になっています。

◎安田会長

小学校にはない活動が急に出てきて、学校にあれば学校がやるものでしょう的な感覚を持ってしまいますよね。私、体育の大学出身なのですけれど、知り合いが全国各地にいますけれども、大阪の先生なんかは、部活動がない学校がいっぱいあるのですよね。例えば何々部で出たいとなったら、先生のところに来て、大会に出たいので、先生顧問やってくださいとなるのですよね。普段は違う場所で練習して、中体連の大会は、先生が付いていかなないと参加できないので、先生が、わかったといえば出られるけど、言わなければ出られないと言っていました。地域によっても凄い、部活動って差があるし、北海道たぶん外部指導者の登録が一番遅れています。日本の中で一番遅れている地域だと思います。他県だと普通に、例えば柔道の指導者がいたら、その指導者が引率して全国大会まで行けるのですよね。北海道、旅費の関係だとか、道の規定で必ず先生が付いてなかったら行けないという規定があるのですよね。北海道の規定なのです。全国の規定の中には、それがないので、私、中体連の事務局持っていて、事務局長とかもやっていたのですけれど、その時も、やはりそういう風になっていて、もしかしたら北海道、他の県よりも遅いかもしれない。これが下りてきたのも地域移行たぶん北海道一番遅いかもしれない。

◎日笠委員

中学校に所属しているので、今バドミントン部、女子バスケ部、男子バレー部ということで、これから検証部活動として行っていくことになるのですけれども、これらの活動が上手くいくように、私、オホーツク中体連でスケートの専門委員長をやっておまして、中体連のオホーツクの会議に参加することがあるので、そこで出てきた情報とかを、この場とかに還元できるように話を聞いて伝えて、佐呂間町の事を考えてしっかりと上手く伝えていくようにして行きたいなと思っています。

◎室井委員

今、スケートと言いましたけど、中学校スケート部はないですよね。

◎安田会長

スケートは個人競技になるので、中体連参加したいとなれば、出られて、佐呂間の子は、今、湧別の方に指導してもらっています。スケートの中学校の教諭の指導者は、もういなくなっているのです、日笠先生は、選手がいるので地区の中体連の中では、専門じゃなくても事務的な手続きをしている形になっています。

◎室井委員

この管内でスケート部ってあるのですか。

◎日笠委員

スケート部はないです。常設外という形で、やりたい選手が少年団活動をしていて、校長が認めたら部活動として出ているのですが、今年から、クラブでの参加が可能になるので、全道大会、来年あるのですけれども、その大会から地域クラブ登録で出てくる人もいと聞いています。

◎室井委員

決まり事がまた、引っかかってこないのかな。

◎日笠委員

中体連の決まりと協会の決まりと、まだ色々なことが決まっていなくて、先ほど室井委員もおっしゃっていたように動いているので。また全中の中体連では許されているけど、北海道の中体連では許される、許されないとかの問題もあるので、難しいところであります。

◎安田会長

各都道府県で違うのが一杯あるのですよね。全日本は、OKなのに北海道は駄目ですか。

◎室井委員

野球部だって、中体連とは別に、野球連盟か何かのクラブチームの大会があって、全日本少年野球とかがあって、確か両方は出られなかった気がします。どっちかを全道出場を獲得したら出られないとか、同じ野球部の部活動で参加するのに、変な決まりだなと思っていました。

◎安田会長

今、だいぶ決まりが変わっています。勝ったところは、全日本に出場するので、その後の中体連の大会があり、順番が変わったので、だいぶ整理されたと思います。当時は、ぐちゃぐちゃでした。

◎室井委員

例えば野球部で夏の中体連が終わって、その後、サッカー部が中体連の大会終わって

なく間に合えば出られたりはするのですか。

◎日笠委員

中体連大会は、駅伝と相撲だけが夏季大会は重複して出場出来て、夏季と冬季でも掛け持ちできます。夏と夏、冬と冬はできません。

◎安田会長

大宮さん何かありますか。

◎大宮委員

私の小学中学といっても、もう5～60年前の事しか頭にないですけど、それを考えるとなかなか、生徒も減ってきている中で、かなり厳しい部活動になっているのだなと改めて実感させられています。団体競技そのものもかなり厳しい状況だと思います。

私は、高校の時は野球部に入っていて、ずっとOB会などの集まりをやっていたのですが、高校の野球部が無くなってしまって、OB会そのものも休業というか、そんな状態であって寂しいですけど、まあ何とかして行かなきゃいけないと思うのですよね。合同チームだとか色々考えられて試合に出たりですとか、そういう時期もあったようですけども、それにしても寂しいなという気持ちです。

◎安田会長

他にございませんか。次回についてはですね、今後、持続可能な運営に必要な主体のあり方だとか、どのような方向で進めていったらいいとかというご意見を次はいただきたいなと思います。また、ここまでの間に、中学校の活動が今このようになっていきますというのを次の資料にして、また検討して行きたいなと思います。今回の中でも、例えばバスの関係であるだとか、会場設備の関係ですとか、少年団活動とのつながり、少年団本部長、今日いらしてないですので、その辺のつながり方だとかを少し整理をして、答申に向けての回答の整理を次にしていくような形で、町としてこのような形で進めるのはどうですかねと、町の方に答申をしていくようになるのかなと思います。

◎船木委員

よろしいですか。先ほど言ったように部活動指導員の方たちを切り離しては、地域移行はないと思うのですが、特に、バスケの本間さんとバレーの吉本さんとバドミントンの室井さん、プラス、室井委員も昔、野球少年団に教えてくれていたし、柔道も尾崎会長が教えてくれていたので、そういう地域でボランティアというかで子ども達を教えた事がある人メインでアンケートや話を聞いてもらわないと、私も何もわからない状態でここに入って座っていますけれど、二神先生が言ったように佐呂間で育って佐呂間の町を知っているという指導者たちの方が、的確なアドバイスがもらえるのではないかと私は思いますけど。

◎安田会長

次回に向けて、少年団の本部長を通じながら、こんなアンケートというのを考えて、今

日、本部長いらしていないので、相談して、その辺の中身を精査しながらアンケート取れたらと思います。その意見とかも反映させながら、答申に向かいたいと思います。

ほか何かございますか？

◎山崎委員

今の方向でよろしいかと思いますが、アンケートの結果で個人競技、例えばeスポーツじゃないですけど、新たな事をやりたいというように答えている子たちに対して、こういう風にしましたよ、というような事が回答として必要だと思いますので、その事も盛り込んでいただけたらと思います。

◎安田会長

そこはアンケート結果ですので、小学校中学校には回答していきたいと思いますが、現実的に1回、終業式時には、アンケート取った結果でバドミントンがあって、他の色々な意見もあったけれども、今、現実的に具体化していけそうなのは、バドミントンですよとだけ話しているので、アンケート結果も含めて周知をしていきたいと思います。

アンケート結果は、1・2年生の保護者には、保護者会を通して周知はしたのですよね。この前、教育委員会の方にも来ていただき、今後の部活動についてという、説明会資料ということで先ほどの資料とアンケート結果も入れたものを配っていますので、また補足は、しておきたいと思います。

◎山崎委員

先ほど少し述べましたが、短期的にすぐ実現可能なことをまずは、やってみようと思うのですけれども、せっかくアンケートの結果で、長期的に幼少の子からもアンケートを取っていると思うので、10年先に必要なもので何か取り入れられるかも合わせて考えて行ったらよいのかと思います。

◎安田会長

それでは、よろしいでしょうか。

事務局から何かございますか。

◎管理課長

事務局から2点お知らせいたします。1点目ですが、次回の3回目の協議会ですが、現在のところ、10月の開催を予定しております。また日程が決まりましたらご連絡させていただきますので、出席についてよろしくお願いいたします。

2点目です。皆さんの机の上に、ファイルが置いてあるかと思いますが、こちらは、協議会の議案ですとか資料を綴じておくのに活用してもらえたらと思います。また資料等の量が多いと思いますので、毎回持ってくるのは大変かと思いますので、会議終了後、そのまま机に置いておいてもらえれば、事務局で預かり、次回の会議の時に机に置いておくようにしますし、資料等を家で見たいという方は、お持ち帰りされても結構です。

事務局からは以上になります。

◎安田会長

それでは、長い時間色々なご意見聞かせていただきありがとうございました。また次回に向けて、こちらも整理して参りたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

■ 閉会 20時00分